公益社団法人日本薬剤学会　2014 年度事業報告

（2014 年 4 月 1 日から 2015 年 3 月 31 日まで）

公益目的事業 1「薬剤学及び関連諸領域に関する情報提供及び啓発，研究の振興，調査研究並びに評価により，薬剤学の進歩とその成果の利用普及を図る事業」

まえがき

今年度は公益社団法人としての責務を遂行するに当たり，上掲の「公益目的事業 1」を着実に推進するための事業計画を立案し，理事会を中心としたガバナンス体制の下，着実に事業の運用を図った．また，健全な財務基盤の確保も円滑な事業運営の課題であるが，事業ごとに精査を行い，こちらも適正運用を達成することができた．

会長

1　APSTJ 2025 推進事業

- 理事会主導により，日本薬剤学会のこれからのあり方“APSTJ 2025”の検討・策定を行った．
- 日本学術会議が大規模研究のために策定しているマスタープランの推進についての検討を行った．
- 国内外の関連学協会との交流事業を推進した．

2　国際標準医薬分業推進事業

- 国際標準的な医薬分業（完全分業あるいは強制分業）への移行について，必要な情報を整理しつつ，実施に向けての戦略を立案し，関連団体と連携しながら行政への働きかけを推進した．今期は FIP 会長の Michel Buchmann 博士を招聘し，5 月 23 日に特別講演会と懇親会を開催し，国際標準医薬分業の趣旨を広く国民へ啓蒙した．

副会長総務担当理事

1　学会賞等表彰事業

1.1	学会賞	受賞者　草井　章
1.2	功績賞	受賞者なし
1.3	奨励賞	受賞者　浅井知浩，山田勇磨
1.4	タケル&アヤ・ヒグチ記念栄誉講演賞	受賞者　Michel Buchmann
1.5	タケル&アヤ・ヒグチ記念賞	---当期設定なし---
1.6	永井記念国際女性科学者賞	受賞者　四方田千佳子
1.7	創剤特別賞	受賞者なし
1.8	優秀論文賞	---当期設定なし---
1.9	製剤の達人称号	受賞者　北村　智，福森義信，並木徳之，中村健太郎，中冨一郎，松村正純，佐藤哲也，寺原孝明
1.10	国際フェロー称号	受賞者　Michel Buchmann
1.11	「薬と健康の週間」懸賞論文	第 1 席　山崎裕太郎 第 2 席　石田洋也 第 3 席　秤谷隼世

2　創剤開発・研究賞表彰事業

2.1	旭化成創剤開発技術賞	受賞者　高橋嘉輝，北村雅弘，神田修子
2.2	旭化成創剤研究奨励賞	受賞者　田原耕平

3　創立 30 周年記念事業準備

- 本学会の創立 30 周年にあたる 2015 年の第 30 年会において，これまでの足跡・実績を振り返るとともに，30 周年記念行事を実施するための準備を行った．
- 30 周年の節目に，記念出版事業として「薬剤学」の歴史，学会，並びに製剤セミナーなどの足跡などを取りまとめた記念誌を編纂・発刊する予定であり，2014 年度に記念誌出版事業のための委員会を立ち上げ，記念誌の発刊のための準備を行った．

渉外担当理事

1　学生主催シンポジウム事業

薬剤学に関わる学生の研究室・大学間を超えた活発な交流と，口演能力や講演会運営経験を涵養することを趣旨として，年会において学生主催シンポジウム SNPEE2014 を開催した．今回から演者を公募制とした．

「ADME～異分野が織りなす薬剤学から」

2014 年 5 月 21 日　　大宮ソニックシティビル

2　広報委員会事業

学会ウェブサイトの企画運営を通して本学会の活動の広報を行った．また，ウェブサイトのイベント情報の表示方法やフッター部分を改訂した．学会会員へのスピーディーな情報提供を目的として、毎月ニュースメールを配信した．

3　医薬品の包装と情報分科会事業

薬剤学を支える包装・情報に関し，専門の研究者・技術者が協議し，本学会会員に情報発信を行うことを目的に，年会において「医薬品包装シンポジウム」を開催した．

「医薬品包装技術は未来の DDS に貢献できるか!?」

2014 年 5 月 22 日　　大宮ソニックシティビル

また，当初予定していた分科会単独セミナー「医薬品包装の進歩（仮題）」に関しては，講師選定が困難となり，本年度の開催を断念した．

4　教育分科会事業

薬剤学に関わる教育問題について，専門委員が協議して提言を行う他，教育資料の企画，年会において以下のとおり薬学教育シンポジウムを開催した．

「薬剤学教育における国際性の充実に向けて」

2014 年 5 月 22 日　　大宮ソニックシティビル

国際連携担当理事

1　英語セミナー事業

国際共通言語である英語での討議能力を養うため，訪日した海外研究者等を講師として招聘し，講義・ディスカッションの全てを英語で行う Global Education Seminar を東西地区で企画した．また，薬物相互作用 FG との共催シンポジウムを実施した．

1.1　第 1 回東地区英語セミナー
2014 年 10 月 28 日　　東京大学

1.2　第 1 回西地区英語セミナー
2014 年 12 月 12 日　　京都大学

1.3　東西合同グローバル GE セミナー・ワークショップ
2015 年 3 月 13 日　　慶應義塾大学

1.4　薬物相互作用 FG／英語セミナー　共催シンポジウム
2015 年 2 月 17 日　　東京大学

2　国際学会等協力事業

- FIP（国際薬学連合）

  FIP の Predominantly Scientific Member Organization として，Council Meeting で重要事項を審議する他，Section/SIG にメンバーを多数派遣する等，BPS の諸活動に積極的に参画した．

- AFPS（アジア薬科学連合）

  AFPS の Member Organization として，Executive Committee に役員を派遣する等，アジア地域における薬科学研究の発展に寄与した．

機関誌担当理事

1　「薬剤学」編集委員会事業

「薬剤学」誌の企画編集と「薬と健康の週間」懸賞論文を選考した．また、「薬剤学」の引用率向上を目的に J-STAGE への登載申請を実施し，原著論文については冊子の発行と同時に公開し，他の記事については半年後から，全情報を公開することとした．

2　投稿論文審査委員会事業

「薬剤学」誌への投稿論文の審査と，優秀論文賞を審査した．

3　学会誌出版事業

3.1　機関誌「薬剤学」

「薬剤学」編集委員会の担当する依頼原稿と投稿論文審査委員会の審査による一般論文で構成される「薬剤学」誌を以下のとおり発行した．

Vol. 74 No. 3　2014 年 5 月 1 日発行
Vol. 74 No. 4　2014 年 7 月 1 日発行
Vol. 74 No. 5　2014 年 9 月 1 日発行
Vol. 74 No. 6　2014 年 11 月 1 日発行
Vol. 75 No. 1　2015 年 1 月 1 日発行
Vol. 75 No. 2　2015 年 3 月 1 日発行

英文論文についても積極的な投稿促進を図った．

3.2　公式欧文誌「Journal of Drug Delivery Science and Technology」

編集委員新体制を構築し，新編集委員長である愛知学院大学山本浩充教授が，薬剤学 75(1): 56-59, 2015 に「公式英文誌 "JDDST" の活用について」という論文を掲載し，購読促進を図った．

書籍担当理事

1　出版委員会事業

本学会の事業に関連する書籍の企画編集を行った．

1.1　日本薬剤学会 30 周年記念誌（じほう）

公益社団法人日本薬剤学会の 30 周年記念（2015 年度）事業の一環として，わが国の薬剤学領域の教育・研究における歴史的な俯瞰をまとめ，会員に配賦する書籍として企画し，2015 年 5 月発刊を予定している．

1.2　新委員により新規刊行物について検討を開始した．フォーカスグループ（FG）によるテーマをもとに，シリーズ刊行物の企画と薬剤学用語集について検討を行った．FG 統括委員会と協議し，シリーズ刊行物について出版委員会の企画が了承され，次年度に企画の具体化を進める．

技術担当理事

1　製剤技術伝承講習会事業

製薬企業各社でのアウトソーシングの加速により，滅失が懸念されているわが国の製剤技術を次代の製剤研究者・技術者に継承するため，座学・実習の講習会を企画運営した．今期は以下のとおり開催した．

1.1　第 15 回シミック製剤技術アカデミー／製剤技術伝承講習会

「経口製剤の製剤設計と製造法」

2014 年 6 月 26 日-7 月 25 日　　名城大学名駅サテライト

1.2　第 7 回製剤技術伝承実習講習会

「塩・Cocrystal のスクリーニング及び結晶多形，水和物のキャラクタリゼーション」

2014 年 9 月 2-3 日　　東邦大学薬学部

1.3　第 8 回製剤技術伝承実習講習会

「口腔内崩壊錠を製造して評価しよう -3-」

2014 年 9 月 18-19 日　　フロイント産業（株）技術開発研究所

1.4　第 16 回シミック製剤技術アカデミー／製剤技術伝承講習会

「非経口製剤の製剤設計と製造法」

2015 年 1 月 22 日-2 月 20 日　　名城大学名駅サテライト

2　製剤技師認定事業

医薬品メーカー等において製剤に携わる研究･開発･製造担当者で，日常業務の遂行上必要とされる共通の基礎的かつ専門的事項及び法規･制度の学識を修得している者を「製剤技師」として認定する．今期は本認定試験の社会的な認知度とステータスの向上を図るため，製剤・創剤セミナーにおいてフォーラムを行ったほか，被認定者の学会への入会の推進など様々な活動を展開した．今期の開催と認定者は以下のとおり．

2.1　第 5 回製剤技師認定試験

2014 年 10 月 25 日　　慶應義塾大学芝共立キャンパス／神戸薬科大学

2.2　第 5 回製剤技師認定者

生田祥太郎，内野　健，梅崎慎也，大川洋一郎，大山健太郎，岡澤直人，鹿取建志，金安勇気，加納　敦，樺澤尚宏，樺島広子，川村義彦，齊藤泰紀，佐伯　勇，佐々木俊，城　尭彬，須川　涼，竹内祐介，辰己育広，津村泰匡，花田真隆，原あゆみ，堀内　始，松島由貴，山崎早苗

製剤・創剤セミナー担当理事

1　製剤・創剤セミナー事業

大学・製薬企業・医療機関などにおいて製剤技術に関わる研究者が一堂に集い，サイエンスとテクノロジーの観点のみならず刻々と変化する時代のニーズも合わせて議論する合宿形式の討論会「製剤・創剤セミナー」を以下のとおり開催した.

1.1　第 39 回製剤・創剤セミナー

「医薬の概念の変貌と創剤」

2014 年 7 月 10-11 日　　ヤマハリゾートつま恋

公開市民講演会事業担当理事

1　公開市民講演会事業

これまで年会主導で実施してきた公開市民講演会を学会主導で企画・開催することを目指し，来期からの実行に向けた検討を進めた.

FG 担当理事

1　FG 統括委員会事業

共通の研究目的等による分野横断的なユニットである各フォーカスグループ（FG）を統括する委員会として，事業・予算の管理を行った.

- 経口吸収 FG

経口吸収に関わる生体膜機能，吸収機構，体内動態，製剤化や臨床開発に至るまでの幅広い問題を統合し，新たな経口吸収研究を開拓するため，以下のとおり合宿討論会を開催した.

・第 5 回経口吸収 FG 合宿討論会

2014 年 10 月 10～11 日　　ピアザ淡海　滋賀県立県民交流センター

- がん治療 FG

新規製剤開発，製剤技術のみならず，臨床現場での抗がん剤の適正使用までを包括した新しい治療戦略の確立を目指し，以下の日本医療薬学会年会においてジョイントシンポジウムを開催した.

・第 24 回日本医療薬学会（後援）

「がん治療を支える創薬、創剤技術、医療現場のフロンティア」

2014 年 9 月 28 日　　名古屋国際会議場

- 経皮投与製剤 FG

ライフサイクルマネジメントを考慮し，医薬品の売上，化合物の物性などの調査を開始するとともに，以下のとおりシンポジウムを開催した.

・第 6 回経皮 FG シンポジウム

2014 年 11 月 10 日　　京王プラザホテル

- 経肺経鼻投与製剤 FG

新たな投与ルートとしての肺の可能性について議論を深めるとともに，患者及び医療従事者にとって使いやすい経肺投与製剤及び吸入療法の開発を目指し，以下のとおりシンポジウムを開催した.

・日本薬剤学会第 29 年会学術シンポジウム

「薬物の肺吸収と投与システムの最適化」

2014 年 5 月 20 日　　大宮ソニックシティビル

- 核酸・遺伝子医薬 FG

核酸・遺伝子医薬 FG の目標を，デリバリーシステムの標準的評価方法の提案と基礎研究と核酸医薬開発との連携推進とすることにメンバー間で合意した．この目標に向けて，第 30 年会において,以下のラウンドテーブルを企画した.

・日本薬剤学会第 30 年会（2015 年 5 月，長崎）

「核酸医薬デリバリー技術の評価の標準化（標準評価方法の提案）～オールジャパンで最強のデリバリー技術を生み出すために～」

- 薬物相互作用 FG

本年度は，薬物相互作用予測手法の問題点，最新予測手法の医薬品開発への浸透・応用に関する議論の場となるよう，英語セミナーとの共催によるシンポジウムを開催した．また日本薬剤学会年会にて薬物相互作用に関するラウンドテーブルセッションを開催した.

・日本薬剤学会第 29 年会ラウンドテーブルセッション

「薬物動態の数理モデル解析の意義・可能性、そして限界」

2014 年 5 月 21 日　　大宮ソニックシティビル

・薬物相互作用 FG/英語セミナー共催シンポジウム

2015 年 2 月 17 日　　東京大学山上会館

- 医療 ZD と調剤 FG

薬剤師が医師処方箋のレビューを含めた真の調剤を実践し，そのリスク管理により医療における Zero Defect が達成されるよう，医薬分立を基盤としたシステム・教育の構築を目指し，今期は以下の講演会の開催に協力し，成功させた.

・国際薬学連合（FIP）会長　Michel Buchmann 博士　特別公開講演会

2014 年 5 月 23 日　　東京商工会議所ホール

- DDS 製剤臨床応用 FG

我が国の優れた DDS 研究が臨床応用に結実するための諸課題や国内外の医薬品規制環境について焦点をあて，シンポジウム及び合宿討論会を以下のとおり実施した．合宿討論会の詳細は「薬剤学 75 巻 3 号」に掲載予定である.

・日本薬剤学会第 29 年会学術シンポジウム

「DDS 製剤臨床応用のデスバレーをいかに埋めるか」

2014 年 5 月 20 日　　大宮ソニックシティビル

・第 30 回日本 DDS 学会学術集会シンポジウム

「DDS マッチングシンポジウム」

2014 年 7 月 30 日　　慶應義塾大学

・第 4 回 DDS 製剤臨床応用 FG 合宿討論会

2014 年 11 月 28～29 日　　KKR ホテル熱海

- PVM*-FG

未充足の臨床ニーズがあるにも関わらず，経済的なメリットや規制面での制約，情報ネットワークの未整備などによって現在十分な取り組みが行われていない小児を対象とした製剤開発および製剤研究について，RTD，研究会を開催し課題や取り組みを共有した．また海外シンポジウムにて LCM セッションを主催し海外に発信した．さらには FG の活動報告の執筆と小児製剤に関する課題と包括的な取り組みについて特集を掲載し発信した.

・日本薬剤学会第 29 年会 RTD

2014 年 5 月 21 日　　大宮ソニックシティビル

・FIP BA/BE シンポジウム

2014 年 10 月 6 日　　韓国ソウル

・薬剤学 74(2),137-140 (2014), 75(1),2-53(2015)

・第 2 回 PVM 研究会＆意見交換会

2015 年 2 月 5 日　　タワーホール船堀

年会長

1　年会事業

- 年会組織委員会

本学会最大の学術集会「年会」の企画運営を行う．年会では，口頭またはポスターによる研究発表，特別講演，各種受賞講演，各種シンポジウム，ランチョンセミナー，企業展示会の他，一般市民を対象とした公開市民講演会等の多種多様なプログラムを設けており，定時総会もこの会期中に併催される．また，昨年に引き続きラウンドテーブルセッション形式での討論を行う．今期の開催予定は以下のとおり．

1.1　第 29 年会

「薬剤学研究が織りなすドラッグデリバリー技術とフォーミュレーションデザイン」

2014 年 5 月 20-22 日　　大宮ソニックシティビル

1.2　2014 年度公開市民講演会

「知って得する薬の豆知識」

2014 年 5 月 24 日　　慶應義塾大学薬学部マルチメディア講堂

学会運営

1　理事会

学会の業務執行の決定，理事の職務執行の監督等を行う機関であり，法人のガバナンスを担う中心的な機能を果たすべく，以下のとおり理事会を開催した．

第 1 回理事会　　2014 年 4 月 30 日
（臨時役員会　　2014 年 5 月 19 日）
第 2 回理事会　　2014 年 9 月 11 日
第 3 回理事会　　2015 年 1 月 29 日

2　評議員会および総会

正会員で構成される学会の最高の決議機関である総会，また，この総会に上程される全ての議案について審議を行う機関である評議員会を以下のとおり開催した．

2.1　評議員会　　2014 年 5 月 21 日　　大宮ソニックシティビル
2.2　定時総会　　2014 年 5 月 21 日　　大宮ソニックシティビル

以上

（参考）事業別収支（損益ベース）一覧
2014年4月1日から2015年3月31日まで

公益社団法人日本薬剤学会　（単位:円）

事業名	経常収益計	経常費用計	当期経常増減額	備考
公益目的事業会計（公1）				
APSTJ2025推進事業	64,000	1,410,071	−1,346,071	
国際標準医薬分業事業	1,020,000	2,990,078	−1,970,078	
学会賞等表彰事業	623,999	2,289,966	−1,665,967	
創剤開発・研究賞表彰事業	0	1,238,865	−1,238,865	
創立30周年記念準備事業	0	113,068	−113,068	
広報委員会事業	0	7,000	−7,000	
医薬品の包装と情報分科会事業	0	86,274	−86,274	
教育分科会事業	0	0	0	
学生シンポジウム事業	58,000	283,749	−225,749	
国際学会等協力事業	0	2,258,340	−2,258,340	
英語セミナー事業	129,000	1,071,428	−942,428	
機関誌出版事業	1,583,352	9,985,448	−8,402,096	
「薬剤学」編集委員会事業	134,000	488,027	−354,027	
投稿論文審査委員会事業	0	0	0	
出版委員会事業	0	8,000	−8,000	
製剤技術伝承講習会事業	11,155,000	8,411,738	2,743,262	
製剤技師認定事業	1,380,000	1,603,691	−223,691	
製剤セミナー事業	8,265,861	8,470,167	−204,306	
FG統括委員会事業	2,394,000	6,309,782	−3,915,782	
公開市民講演会事業	0	0	0	
年会事業	33,391,298	30,485,122	2,906,176	
共通	11,644,000	4,934,472	6,709,528	
小計	71,842,510	82,445,286	−10,602,776	
法人会計	13,079,595	10,234,535	2,845,060	
合計	84,922,105	92,679,821	−7,757,716	

貸借対照表
2015年3月31日現在

公益社団法人日本薬剤学会　（単位：円）

科目	当年度	前年度	増　減
Ⅰ資産の部			
1．流動資産			
現金預金	38,223,313	44,042,764	−5,819,451
現金	0	1,380	−1,380
普通預金	8,746,875	7,430,874	1,316,001
郵振/会費	25,813,654	24,422,130	1,391,524
郵振/講習会	3,485,616	11,989,220	−8,503,604
郵振/セミナー	177,168	199,160	−21,992
前払費用	2,274,622	2,406,006	−131,384
仮払金	0	500,000	−500,000
流動資産合計	40,497,935	46,948,770	−6,450,835
2．固定資産			
(1)基本財産			
定期預金	20,000,000	20,000,000	0
基本財産合計	20,000,000	20,000,000	0
(2)特定資産			
積立預金(ﾀｹﾙｱﾔﾋｸﾞﾁ記念基金)	35,000,000	35,000,000	0
積立預金(創剤開発・研究賞積立金)	427,126	1,665,991	−1,238,865
積立預金(学術集会基金)	7,900,000	7,900,000	0
特定資産合計	43,327,126	44,565,991	−1,238,865
(3)その他固定資産			
什器備品	6,297	8,394	−2,097
差入保証金	100,000	100,000	0
その他固定資産合計	106,297	108,394	−2,097
固定資産合計	63,433,423	64,674,385	−1,240,962
資産合計	103,931,358	111,623,155	−7,691,797
Ⅱ負債の部			
1．流動負債			
未払費用	1,110,254	1,006,692	103,562
前受金	30,000	30,000	0
前受会費	18,662,000	18,692,000	−30,000
預り金	201,466	199,109	2,357
仮受金	20,000	30,000	−10,000
未払消費税等	800,000	800,000	0
流動負債合計	20,823,720	20,757,801	65,919
負債合計	20,823,720	20,757,801	65,919
Ⅲ正味財産の部			
1．指定正味財産			
指定正味財産合計	20,000,000	20,000,000	0
（うち基本財産への充当額）	(20,000,000)	(20,000,000)	(0)
2．一般正味財産	63,107,638	70,865,354	−7,757,716
（うち特定資産への充当額）	(43,327,126)	(44,565,991)	(−1,238,865)
正味財産合計	83,107,638	90,865,354	−7,757,716
負債及び正味財産合計	103,931,358	111,623,155	−7,691,797

正味財産増減計算書
2014年4月1日から2015年3月31日まで

公益社団法人日本薬剤学会　（単位:円）

科目	当年度	前年度	増減
Ⅰ 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1)経常収益			
基本財産運用益	216,000	216,000	0
基本財産受取利息	216,000	216,000	0
特定資産運用益	323,999	323,999	0
特定資産受取利息	323,999	323,999	0
受取会費	23,288,000	23,237,000	51,000
正会員	12,858,000	12,983,000	−125,000
学生会員	1,950,000	1,614,000	336,000
賛助会員	8,480,000	8,640,000	−160,000
事業収益	59,488,332	86,035,455	−26,547,123
学術集会・委員会等事業収益	56,224,980	80,721,500	−24,496,520
参加費	33,437,000	36,928,000	−3,491,000
助成金・補助金	150,000	1,150,000	−1,000,000
寄付金・協賛金	5,650,000	18,963,500	−13,313,500
セミナー共催金	3,588,736	6,480,000	−2,891,264
広告料	1,729,244	2,700,000	−970,756
出展料	11,670,000	14,500,000	−2,830,000
学会誌等出版事業収益	1,583,352	1,753,955	−170,603
購読料	806,857	867,510	−60,653
投稿料・別刷料	343,424	429,700	−86,276
許諾料・使用料	351,765	203,485	148,280
広告料	81,306	253,260	−171,954
学会賞等表彰事業収益	300,000	2,000,000	−1,700,000
助成金・補助金	300,000	500,000	−200,000
寄付金・協賛金	0	1,500,000	−1,500,000
製剤技師認定事業収益	1,380,000	1,560,000	−180,000
受験料	880,000	1,080,000	−200,000
認定料	500,000	480,000	20,000
雑収益	1,605,774	395,225	1,210,549
雑収益	1,603,318	392,492	1,210,826
受取利息	2,456	2,733	−277
経常収益計	84,922,105	110,207,679	−25,285,574
(2)経常費用			
事業費	82,445,286	94,281,728	−11,836,442
給料手当	960,000	900,000	60,000
臨時雇入金	2,248,000	1,453,125	794,875
会場費	21,205,446	14,526,035	6,679,411
旅費交通費	4,596,402	6,289,614	−1,693,212
会議費	3,621,227	5,395,412	−1,774,185
関連行事費	11,319,812	10,283,545	1,036,267
賞状・賞牌・副賞費	2,896,814	3,267,822	−371,008
通信運搬費	1,716,089	2,240,403	−524,314
ウェブサイト管理費	789,882	2,533,845	−1,743,963
消耗品費	519,632	1,019,113	−499,481
印刷製本費	11,224,443	15,810,427	−4,585,984
貸借料	1,770,260	4,654,335	−2,884,075
保管料	252,720	245,700	7,020
諸謝金	5,654,381	7,733,807	−2,079,426
租税公課	0	31,400	−31,400
支払負担金	1,854,245	2,546,421	−692,176
業務委託費	10,433,669	13,789,398	−3,355,729
雑費	1,382,264	1,561,326	−179,062
管理費	10,234,535	9,668,368	566,167
給料手当	960,000	900,000	60,000
旅費交通費	297,290	281,510	15,780
会議費	2,067,848	1,608,434	459,414
通信運搬費	1,165,687	1,081,730	83,957
消耗品費	30,175	261,582	−231,407
減価償却費	2,097	2,097	0
印刷製本費	403,849	406,359	−2,510
貸借料	298,080	289,800	8,280
租税公課	800,000	800,000	0
業務委託費	2,911,220	2,833,291	77,929
公認会計士報酬	787,500	735,000	52,500
雑費	510,789	468,565	42,224
経常費用計	92,679,821	103,950,096	−11,270,275
当期経常増減額	−7,757,716	6,257,583	−14,015,299
当期一般正味財産増減額	−7,757,716	6,257,583	−14,015,299
一般正味財産期首残高	70,865,354	64,607,771	6,257,583
一般正味財産期末残高	63,107,638	70,865,354	−7,757,716
Ⅱ 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	20,000,000	20,000,000	0
指定正味財産期末残高	20,000,000	20,000,000	0
Ⅲ 正味財産期末残高	83,107,638	90,865,354	−7,757,716

財産目録
2015年3月31日現在

公益社団法人日本薬剤学会　　（単位：円）

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)				
	預金	普通預金		8,746,875
		三東UFJ/江戸川橋	運転資金として	4,468,543
		三東UFJ/江戸川橋(ｾﾐﾅｰ)	同上	2,068,851
		三住/大塚	同上	1,003,881
		三住信/本店	同上	1,205,600
		郵振/会費	同上	25,813,654
		郵振/講習会	同上	3,485,616
		郵振/製剤セミナー	同上	177,168
	前払費用	加盟団体年会費前払等	公益目的事業の前払分他	2,274,622
流動資産合計				40,497,935
(固定資産)				
基本財産			公益目的事業に必要なその他の活動の用	20,000,000
	定期預金		に供する財産であり、運用益を管理費に使用	20,000,000
		(定期)三住信/本店営業部		20,000,000
特定資産				43,327,126
	積立預金(ﾀｹﾙｱﾔﾋｸﾞﾁ記念基金)		公益目的保有財産であり、運用益を公益	35,000,000
		(定期)三住信/本店	目的事業(ﾋｸﾞﾁ記念各賞表彰事業)に使用	30,000,000
		郵振/講習会	同上	5,000,000
	積立預金(創剤開発・研究賞積立金)		公益目的事業(創剤開発・研究賞表彰事業)	427,126
		郵振/講習会	に使用	427,126
	積立預金(学術集会基金)		公益目的保有財産であり、運用益を公益	7,900,000
		郵振/講習会	目的事業(年会事業)に使用	7,900,000
その他固定資産				106,297
	什器備品	ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾀｰ	法人の管理運営に供している資産	6,297
	差入保証金	事務所借室学会ｾﾝﾀｰﾋﾞﾙ	法人の管理運営に供している資産	100,000
固定資産合計				63,433,423
資産合計				103,931,358
(流動負債)				
	未払費用	英語ｾﾐﾅｰ開催費、学会誌保管費用等	公益目的事業の未払分等	1,110,254
	前受金	第40回ｾﾐﾅｰ参加費前受金	公益目的事業の前受分	30,000
	前受会費	次年度以降会費	事業及び法人運営の前受分	18,662,000
	預り金	源泉所得税	法人の管理運営業務に係る未払分	201,466
	仮受金	郵振/会費，三東UFJ/江戸川橋等	不明入金等の仮受分	20,000
	未払消費税等	未払消費税等		800,000
流動負債合計				20,823,720
負債合計				20,823,720
正味財産				83,107,638

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針
(1)固定資産の減価償却
有形固定資産の減価償却は定額法によっている。
(2)消費税等の会計処理
消費税の会計処理は、税込み方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高
基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。 （単位：円）

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	20,000,000	0	0	20,000,000
小計	20,000,000	0	0	20,000,000
特定資産				
積立預金(ﾀｹﾙｱﾔﾋｸﾞﾁ記念基金)	35,000,000	0	0	35,000,000
積立預金(創剤開発・研究賞積立金)	1,665,991	0	1,238,865	427,126
積立預金(学術集会基金)	7,900,000	0	0	7,900,000
小計	44,565,991	0	1,238,865	43,327,126
合計	64,565,991	0	1,238,865	63,327,126

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳
基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。 （単位：円）

科目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
定期預金	20,000,000	(20,000,000)	(0)	(0)
小計	20,000,000	(20,000,000)	(0)	(0)
特定資産				
積立預金(ﾀｹﾙｱﾔﾋｸﾞﾁ記念基金)	35,000,000	(0)	(35,000,000)	(0)
積立預金(創剤開発・研究賞積立金)	427,126	(0)	(427,126)	(0)
積立預金(学術集会基金)	7,900,000	(0)	(7,900,000)	(0)
小計	43,327,126	(0)	(43,327,126)	(0)
合計	63,327,126	(20,000,000)	(43,327,126)	(0)

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高
固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。（単位：円）

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
什器備品	436,547	430,250	6,297
合計	436,547	430,250	6,297

5. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高
補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。 （単位：円）

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上
助成金						
Award Grant	(公財)永井記念薬学国際交流財団	0	300,000	300,000	0	注)
Conference Grant	(公財)永井記念薬学国際交流財団	0	150,000	150,000	0	注)
合計		0	450,000	450,000	0	

※注)いずれも当該年度内に目的たる支出が完了するため、貸借対照表上の記載はない。

附属明細書

1. 基本財産および特定資産の明細
「公益法人会計基準」(平成20年4月11日、平成21年10月16日改正内閣府公益認定等委員会)に定める附属明細書の記載上の留意点に従い、財務諸表の注記3および4に記載しているので、内容の記載を省略している。

2. 引当金の明細 （単位：円）

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		当期末残高
			目的使用	その他	
なし	0	0	0	0	0

以上

独立監査人の監査報告書

平成27年 4月17日

公益社団法人　日本薬剤学会
　会長　山下　伸二　殿

馬目公認会計士事務所

公認会計士　馬目 利昭

＜財務諸表監査＞

私は、公益社団法人日本薬剤学会の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの平成26年度の貸借対照表及び正味財産増減計算書並びにその附属明細書並びに財務諸表に対する注記について監査し、併せて、貸借対照表内訳表及び正味財産増減計算書内訳表（以下、これらの監査の対象書類を「財務諸表等」という。）について監査を行った。

財務諸表等に対する理事者の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽の表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

私の責任は、私が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。私は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、私に財務諸表等に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表等の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、私の判断により、不正又は誤謬による財務諸表等の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、私は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表等の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、理事者が採用した会計方針及びその適用方法並びに理事者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表等の表示を検討することが含まれる。

私は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

私は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産及び正味財産増減の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

＜財産目録に対する意見＞

私は、公益社団法人日本薬剤学会の平成27年3月31日現在の平成26年度の財産目録（「貸借対照表科目」、「金額」及び「使用目的等」の欄に限る。以下同じ。）について監査を行った。

財産目録に対する理事者の責任

理事者の責任は、財産目録を、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠するとともに、公益認定関係書類と整合して作成することにある。

監査人の責任

私の責任は、財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているかについて意見を表明することにある。

財産目録に対する監査意見

私は、上記の財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているものと認める。

利害関係

公益社団法人日本薬剤学会と私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以　上

監査報告書

公益社団法人日本薬剤学会
会長　山下伸二　　殿

2015年 4月21日
公益社団法人日本薬剤学会
監事　菊池　寛
監事　渡辺善照

私たちは、2014年4月1日から2015年3月31日までの2014年度における会計及び業務の監査を行い、次のとおり報告する。

1　監査の方法の概要

(1)　会計監査について、帳簿ならびに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて計算書類の正確性を検討した。

(2)　業務監査について、理事会およびその他の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて業務執行の妥当性を検討した。

2　監査意見

(1)　収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表及び財産目録は、会計帳簿の記載金額と一致し、法人の収支および財産の状況を正しく示していると認める。

(2)　事業報告書の内容は真実であると認める。

(3)　理事の職務執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実はないと認める。

以上